

(様式1)

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 3月 23日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470202239		
法人名	医療法人光臨会		
事業所名	あんしんホーム		
所在地	広島市西区庚午中二丁目11番15号 (電話) 082-507-6600		
自己評価作成日	令和4年3月3日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470202239-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470202239-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年3月18日

### 【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>医療法人が営むグループホームであり、二次救急医療機関である系列の荒木脳神経外科病院のバックアップを受け、定期的な往診含めた日々の健康管理、体調不良・緊急時の対応などでは、特に信頼をいただいています。ここ数年は入居者の重度化が進んできていますが、介護士、医師、看護師が連携して支援させていただいています。</p> <p>日々の生活では、活動性を重んじながら楽しみ、喜びの多い生活の提供を心がけています。約2年間は新型コロナウイルス感染予防対策にて、これまで積極的に行ってきた外出行事の制限を余儀なくされました。しかし、市中の感染状況が落ち着いている際には、初詣やお花見、紅葉狩り、ドリミネーション鑑賞、近隣の教会の敷地をお借りして焼き芋などの外出行事、施設内にて七夕や夏祭り、クリスマス会など季節感を感じていただきながら、入居者さまの希望に応じて楽しみを実現することができました。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>コロナ禍にて、利用者は家族と直接、会う事が困難な中、職員は特に、馴染みや思い出の場所への外出支援に取り組み、利用者の楽しみや生活の変化を実現させている。日頃の様子を家族に、よりしっかり伝える事に各職員が取り組み、動画を見て貰いながら具体的な要望を聞くことで、家族が日常のケアに参加できた例もある。運営推進会議の事前準備として参加者に予め議題を知らせておくなどの工夫を行い、双方からの情報・意見・提案があり、運営に活かせる活発な場となっている。また定期的な接遇チェックや転倒アセスメントシート等の導入により管理者を中心に会議で事例検討をし「思いやりのあるケア」に繋げている。法人としての強みを活かして医療面での研修に参加し、夜間緊急対応の職員と看護師を決めており、チームで丁寧な看取りケアにも力をいれている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	毎朝の朝礼にて理念の唱和を行っている。また全体ミーティングやフロアミーティングにて事業計画の説明や振り返りを行う際に、理念を交えて話している。	開設時からの理念を掲げ、年間事業計画の立案や振り返り時は、理念と照らし合わせている。職員は個々の立場で「あんしん・信頼の提供」「思いやりのあるケア」等の具体的な行動の実践に取り組んでいる。成果として、医療連携や家族への近況報告・尊厳の意識の高まり等がある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	以前は町内会行事への参加・協力や、近隣中学の職場体験実習の受け入れ、ボランティアの方をお呼びしたイベント等を毎年実施していたが、コロナ禍の生活となってからは、町内会行事、体験実習も中止となり、交流が行えていない。	地域行事の中止などの地域情報は回覧板で把握している。近くの教会へ散歩の時、住民から声をかけられて挨拶し民家の花を眺める等の交流を大切にしている。コロナ禍前までは、事業所を地域の祭りの休憩場に提供する等、地域からも「あんしん」の場になるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者が地域包括支援センターと協力して介護予防拠点整備促進事業にて住民に向け認知症について話をする機会を持っていたが、コロナ禍にて参加できていない。新たに認知症アドバイザーを取得したため、今後サポーター養成講座に参加していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営状況の報告、行事等の取り組み紹介を中心に、出席者から諸々の意見聴取を行っている。今年度から町内会長、民生委員だけでなく、認知症地域支援推進員の方にも参加していただき、地域の状況や認知症カフェの動向などを共有できるようになった。	運営推進会議の年間日程の予定を知らせ、事前に議題を告知する等の工夫を行い、双方による活発な意見交換や提案がある。転倒事故からの職員の取り組み報告・時勢に合わせた面会方法等検討した。出席者の提案で、オンライン会議を実現させ、より運営に活かせる体制となっている。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町とは法人として関係性構築が強く、管理者は地域包括支援センター職員とは顔の見える関係が築けている。その中で入居問合せだけでなく、相談なども行われることがある。新たに認知症地域支援推進員とも連携を図れるようになり、情報共有や相談が容易に行えるようになった。	運営推進会議では毎回、地域包括支援センター・認知症地域支援推進員の出席があり、認知症カフェ等の情報を通じて地域課題(高齢者の居場所)についても認識し合い、緊急の利用相談を受ける事もある。100歳体操や認知症アドバイザーとしても市町との協力関係に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等適正化委員会を中心に、生活を拘束しない適切な介助・援助が行えるよう、センサー等機器や環境整備に取り組んでいる。しかし転倒事故による骨折事例などあり、予防との兼ね合いに苦慮している中で、転倒・転落アセスメントシートを活用し、職員の意識向上に努めている。	身体拘束に関する研修は(入職時と年2回)継続して行い、管理者は日頃から職員と適切な対応を話し合っている。また職員全体で事例を検討し、不適切なケアに繋がらないよう意識を高めている。転倒リスク時の対応・センサーの必要性などに関して重点的に改善に取り組んでいる。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年間研修として虐待防止研修を実施し、理解向上に努めている。またリーダーを中心に職員の要望や意見、気付き等を聴取しながら、職員のストレスマネジメントに配慮している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に成年後見制度を活用している入居者がおり、日々業務の中で意義や価値を実感している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居見学時より契約事項や方針を細やかにお伝えし、その中で口頭や書面をいただく本人・家族の希望を踏まえご理解をいただけるよう努めている。入居後も日々の生活変化をお伝えすることで、不安や疑問点を解消できるよう努めている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍にて容易に面会ができない中で、電話やメール、オンライン面会や物品の受け渡し時、毎月の通信などにて近況報告を行い、ご意見やご要望を聴取、日常生活に反映できるように努めている。また管理者は2・3回/月週末勤務し、平日仕事のご家族との連携に努めている。	職員は月1回の家族への電話と「あったか通信」「運営推進会議の報告書」を郵送し、時には動画にて近況を伝えている。利用者がボールに足を出そうとする動画を見て貰い「ぜひ、やって下さい」と馴染みのサッカーボールを持参した等、家族が日常ケアに参加した例がある。	

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の全体・フロアミーティングの実施や、リーダーや管理者との個人面談を通して、職員からの意見等を聴取し、業務改善に繋げている。また議題については事前に通知し、参加できない職員の意見を聴取するように心がけている。	管理者は普段から職員の声・思いを聴く事を心掛け、ミーティングの議題はリーダーと事前に決めて周知させ、職員の意見や提案により業務改善に繋げている。口腔ケアに関する技術研修の希望や外出係からは楽しみを実現させるアイデア案、また、オムツ類の業者購入を決定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	半期毎に職員個人の目標設定と自己評価を実施。それを元に管理者が個人面談を行い人事評価を実施している。また日替わりで日勤リーダーを決め、仕事の向上心と責任感育成を図っている。職員のリフレッシュのため、年1回の最大5連休の長期休暇制度を継続している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	リーダーやリーダー候補には認知症実践研修、経験の浅い職員には認知症基礎研修などの受講を段階的に進めている。また管理者、リーダーは法人内管理者研修を受講している。新人教育では、教育担当者を中心に業務進捗状況シートを活用し、スタッフ全員で把握できるよう進めている。アセッサーが在籍し、キャリア段位制度活用が課題である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	認知症介護リーダー研修や認知症アドバイザー研修等通じて、認知症介護コーディネーターや認知症地域支援推進員との交流から相談できる環境は僅かながらできてきている。しかし近隣の同業者との連携や災害やコロナ感染症など緊急時の連携など課題に感じている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	施設内見学や事前面談、担当者会議などの機会を大切に、可能な限り本人の心身の状況把握、要望や不安を汲みとり、受け入れ態勢を整えている。入居初期より管理者だけでなく担当職員を決め、本人の気持ちに寄り添い、関係性構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目( 2階ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくり努めている。	管理者だけでなく担当職員を決め、ご本人の様子や状況をお伝えし、家族の想いや不安に寄り添いながら関係構築を図っている。特に入居初日や翌日には必ず生活のご様子をお伝えし、生活に慣れるまでは頻回に生活面の相談含めてコミュニケーションが図れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学・入居相談時には、当事業所で必要とされている支援が可能かどうか、ご家族と協議するように心がけています。当事業所に空きがなく、在宅生活継続するためのサービス検討のためにご家族、担当ケアマネジャーと連携を図った事例があった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食器洗い・拭きや洗濯物たたみ、テーブル・手すりの拭き掃除などの家事共に行ったり、季節行事合わせて作品と一緒に作製するなど生活を共に過ごしている。入居者の重度化もあり、介護優先となることもあるが、常に相手を敬う気持ちを忘れず、できる活動を継続して行っているよう接することを重要視している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍までは、面会や外出に制限は設けず、気楽に本人と家族が触れ合え、関係性を保ち続けられるように配慮していたが、現在はオンライン面会が主である。ただオンライン面会は特に遠方家族からは高評価をいただいている。その他毎月郵送する通信での近況報告や、何かあれば電話での報告・相談をするようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍で家族面会同様、思うようにできていないのが現状である。知人や親戚からの電話でのやり取り、手紙や贈り物の受け渡しの支援など、関係性がなるべく維持できるように努めている。散歩中の顔なじみの方との挨拶程度の交流は継続できている。	コロナ禍の中、担当職員は利用者の様子を家族に伝えていく事に、より努めている。月1回以上の電話、事業所だよりにひとことを添え、またライン通話も実現させている。ドライブで馴染みの神社や住んでいた近辺に行き、慣れた美容院に通えるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	相性を考慮した席配置や、集団活動では関係性を構築できるよう職員が間に入るなど生活様式の組み立てを行い、社会性を保った入居生活が継続できるように配慮している。 誕生日会やイベントでは、他ユニットとの交流もできるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設転居の際には、次施設職員へ本人・家族状況やケアの工夫などを伝達し、スムーズに新しい環境に慣れていただけるよう努めている。退去後もご家族から近況報告や生活相談をいただくこともあり、適宜対応させていただいている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人らしい生活スタイルや希望を聴取し、実現できるよう心がけている。本人から聴取が困難な場合には、ご家族から聴取した生活歴・趣味や、以前の利用サービス関係者から情報を聴取し、カンファレンスにて話し合い生活援助計画に反映できるように努めている。	本人・家族から生活歴や一日の過ごし方等について情報を得て職員間で共有している。言い易い雰囲気を中心掛け、普段の会話から利用者の思いを把握している。表出が困難な時はイエス・ノーで意思表示ができるよう工夫し表情・顔つきなどで察し、相手の立場に立ち検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にこれまでの生活歴・人生歴等についてシートに記載していただき、それを元に本人・家族との対話の中で情報収集を行う。また以前の利用サービス関係者や、在宅連携ノート等から情報を得てカンファレンスにて共有し生活援助計画作成に反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の記録や、アセスメントツールを使用して状況把握を行い、申し送りや連絡表、カンファレンス等にてスタッフ間で共有している。転倒アセスメントシートを活用し、転倒リスクを把握し環境調整に反映したり、健康面は看護師との協働にてより正確に把握できるようになった。		

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>多職種(介護職員・看護師・療法士・ケアマネ)でのカンファレンスを実施。各々の立場から本人のニーズ実現のために話し合い、生活援助計画を作成している。ご家族にも事前に希望を聴取するように心がけている。</p>	<p>担当職員を中心に、課題と必要なケアを掲げ、医療スタッフを含めたカンファレンスにて多角的に検討し、計画作成者が総括して生活援助計画を作成している。食事姿勢・ポジショニング・生活機能の向上・趣味の継続など、具体的な個別支援に繋がる計画書を作成し実践に取り組んでいる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアの実践内容を介護記録に記録し、それを元にカンファレンスにて職員間で話し合いをもち見直しをかけている。より詳細に見やすい介護記録方法へ見直したが、内容や方スタッフ間に差があり、支援計画と連動が不十分なケースもあり、今後も改善を図ってきたい。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>コロナ禍までは同敷地内にあるデイサービスのレクリエーションに職員と一緒に参加し、趣味であるカラオケを楽しんだりしていた。現在は法人内のリハビリから運動機器を借りたり、運動方法を学び実践していることがある。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ禍で地域資源をうまく活用できていない。感染状況が落ち着いている時には、近隣の店舗の理解を得て、美容室に通われる利用者や、近隣の教会の敷地をお借りして焼き芋を作ったりすることができた。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>現在の入居者は母体病院医師がかかりつけ医であるが、元々のかかりつけ医に受診することも可能。必要に応じ皮膚科や歯科の往診、整形外科、認知症専門医療機関への受診支援も行う。専門的医療が必要な場合は、母体病院を中心としたネットワークを活用、医療連携を図っている。</p>	<p>母体病院との連携の項目が、利用の理由になっている事が多いが、元々の主治医への円滑な受診も支援しており変更も可能である事を説明している。往診時には施設看護師・介護職員が同席し、日頃の変化を報告しながら医師からの医療情報を適切なケアに繋げる体制を築いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	所属の看護職員が、入居者の健康管理を協働しており、内服管理や、日常の身体変化・異変時対応・助言を受けられる体制である。医療機関受診時の付き添いなど、介護職員では及びにくい対応が可能となっている。また以前より皮膚トラブルが軽減しており、介護士の日頃のケア向上が図れている印象あり。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人の病院で入院加療を行うことが多く、入院中の様子も把握しやすく、医療スタッフとの連携は充実している。他医療機関との連携が必要な際には、同病院の社会福祉士の協力が得られ心強い。医療法人系列のグループホームとして、大きな強みに感じる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居者の状態変化に合わせて、かかりつけ医からの説明に管理者または看護師が同席し、当施設で対応できる支援内容の確認や、家族の理解と選択を深められるように努めている。また定期的に看取りアンケートをご家族に実施し、意向確認をしている。	利用契約時には事業所で出来る事を伝え、以降も揺れ動く利用者・家族の気持ちに寄り添いながら医療関係者と共に、重度化・終末期の体制を整えている。定期的に行うアンケートにて意向の確認だけではなく、利用者・家族との対話に繋げるなど、チームで丁寧な支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内にAEDの設置しており、またその取り扱い講習を始め、緊急時の対応についての研修は同法人病院の主催によるものが多く、より専門性の高い研修を得られている。夜間緊急対応当番、看護師夜間対応など夜間帯にも対応できる体制を整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	夜間を想定した避難訓練を行ない、防災センターの防災宿泊研修に夜勤者全員の履修を目指している。また洪水・津波時の訓練も行っている。しかし地域住民との相互協力体制については検討の余地があり、BCP策定を進めていきたい。災害時備蓄については、3日分の準備を整えている。	近くの消防署の助言を得ながら利用者・職員は、火災・自然災害時の消防避難訓練を行っている。夜間を想定した防災センターでの研修体験を活かし、上階への移動方法など臨場感をもった訓練となっている。見守りなど地域との協力体制の強化に向け、具体的に取り組む予定である。	

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	共に暮らすことによる親密さは大切に、ステレオタイプなケアサービスにならないように努めている。同時に入居者様への敬いの気持ちを忘れることのないよう、言葉遣いからスタッフ間で配慮している。また半年に1回接遇チェックを行っており、自身の接遇について見直す機会としている。	相手の立場や気持ちに合わせたケアを目指し、食事介助時は声のトーン・料理内容を伝えながらの支援に努めている。定期的に自己と他者における「接遇チェック」で研修を行い、事業所理念にも照らし合わせて改善を図っている。申し送り時は、個人名を出さない工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	例えば、更衣時の衣類の選択や食事の付け合わせを選択するなど、日常生活で自己選択できるように問いかけて接することに留意している。意思表示が困難な方には、イエス・ノーや頷きなど答えられる形であったり、表情にて判断している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床時間や食事時間、入浴頻度・時間など個人のペースや生活リズムを可能な限り尊重するように配慮している。しかし睡眠状況などの健康面や衛生面を考慮したり、集団生活としての一定のルールに則ることも必要と考えており、難しい事例もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自身の希望に沿った美容用品を使用されていたり、コロナの感染状況が落ち着いている時は馴染みの美容室に通えるよう支援している。起床時にはまず身だしなみを整えることから支援させていただき、衣類も本人の好みで選んでいただき、ゆっくりと時間をかけられるよう配慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	重介護化が進む中で炊事を共有することが難しくなり、給食業者の手作り料理を提供しているが、希望される献立を業者に依頼したり、食器洗い等は入居者様と協働して取り組んでいる。また希望された食べ物は買い物やご家族様に持参いただき、食事の際などに提供している。希望に沿っておやつ作りなどは入居者様と一緒にいたりしている。	手作り調理の外部業者に変更し、栄養バランスや様々な食事形態が可能となっている。みそ汁やご飯をよそう・ケーキの飾りを楽しむ等、楽しみと役割を發揮する機会を職員は大切にしている。テーブルの高さ、安定した座位の保持等にも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス, 水分量が一日を通じて確保できるよう, 一人ひとりの状態や力, 習慣に応じた支援をしている。	健康管理表にて食事量・飲水量を把握・管理している。個々人の能力に合わせ自立して摂取して頂けるよう、食事形態や食器の工夫を行っている。水分摂取量についても、とりみや容器の形状、声かけのタイミングを検討しながら確保できるように努めている。また2週間に1回は必ず体重測定を行い、体重増減をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアチェック表を掲示し、毎食後の口腔ケアの励行と適切な援助を行っている。各個人の口腔ケアに見合った形状の歯ブラシやスポンジブラシなど準備をし、義歯の適切な管理を行っている。また必要に応じて歯科往診での口腔ケアを受けていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	重度化に伴い、夜間を中心にオムツを使用する入居者もおられるが、排泄チェック表にて個人の排泄タイミングを把握し、日中は出来る限りトイレで排泄が行えるように努めている。介助量が多たでも、日中のトイレ誘導を行う反面、双方の負担を軽減する方法に悩む事例もあり、リフトなど支援機器の導入も検討したい。	日中はトイレ排泄を基本としているが、個々の身体状況に合わせ支援を行っている。尿意に着目してトイレ誘導を繰り返し、オムツからリハビリパンツになった例がある。業者からそれぞれのパット・オムツなどの特長を確認し、夜間の睡眠時間を妨げないケアにも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日頃から便秘予防にヨーグルトなどの乳製品や繊維質な食品を摂取するように心がけたり、水分摂取を促すようにしている。またラジオ体操や散歩等の運動を促している。排便コントロールが必要な場合には、医師・看護師と連携して適切な薬剤使用、処置を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	時間帯や人数によって叶えられない部分もあるが、個人の希望に沿えるように時間調整などを行っている。浴槽リフトやシャワーキャリーを活用しているが、より重度化が進みシャワー浴での対応となっている方には足浴を同時に行うなど工夫している。	状況に合わせて浴槽リフトを使い、安心してゆったりと浴槽に浸かれるよう支援している。時には普段とは違う内容の話を聴く事もあり、職員は大切な機会としている。シャワー浴の場合は同時に足浴を行い入浴の効果を高めている。	

自己評価	外部評価	項 目( 2階ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	個人の生活サイクルに応じて、極 力自由な生活援助を行っている。 また夜間の睡眠状態や下肢浮腫 が強い方など状況に応じて日中 の休息時間を設けたり、夜間安 眠できるように快適な室温・湿 度に調整する、リラックスでき る音楽をかけるなど支援してい る。		
47		○服薬支援  一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	薬剤情報をファイルにて一括管 理、各フロアに配置しすぐに確 認できる体制にしている。また 内服忘れや誤薬を防止するため に、職員2人で配薬時・服用前 後にチェックを行っている。ま た体調変化による服用のコン トロールなどは訪問する薬剤 師や看護師と相談し、必要に 応じて医師と相談するように している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換等 の支援をしている。	能力に応じて、洗濯や皿洗い、 拭き掃除など家事の役割をも ってもらえるよう努めている。 また計算や塗り絵、歌、作品 づくり、好きなテレビ鑑賞な ど趣味に応じたアクティビティ を取り入れ、気分転換に努めて いる。毎日全員を支援すること は難しいが、援助計画に沿っ た支援を行うように努めてい る。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援してい る。	日々の散歩やなどの外出はマ スクを着用するなど感染対策を して日常的に取り組んでいる。 コロナ禍で家族との外出や人 流のある場所には行けないが 、花見や紅葉狩り、ドリミネ ーション鑑賞、課外活動(焼き 芋)など、希望や季節を感じ てもらえる外出行事を企画し ている。	コロナ禍の為、これまで通り の外出行事は難しい中、行事 係の職員を中心に季節を感じる 数々の外出行事を可能にした 経緯がある。要望により、集 会所サロン・縁のある神社へ の初詣など、個別の外出支援 にも取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	ご家族様に理解を頂きながら 、入居者本人管理で現金を持 たれている方もおられる。コ ロナ禍でなかなか一緒に買 い物には行けず、職員がそれ ぞれの希望を聞き、代理で買 い物に行き立替えたり、事業 所内で支払って頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目( 2階ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	知人や家族に電話をかけられる時に支援をしたり、かかってきた電話の取次ぎ支援をしている。入居者希望で年賀状や郵便のやり取りの支援も行っている。コロナ禍となってからはオンライン面会も活用している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個々人の認知症状や好みによって合う環境は異なるが、毎日の掃除を心掛け清潔感と適切な室温・湿度を保つようにしている。また季節を感じれるよう花を飾ったり、行事毎に一緒に飾り作製をしたり、寛げるようソファを置くなど生活感を感じれるようにしている。夜間は照明を調整し転倒予防に努めている。	職員は環境整備に努め、一人ひとりの居場所を大切に、作品作りやテレビの野球観戦などを通して楽しく寛げる場となるよう支援している。傍に台所があり食器棚・ソファ・鉛筆削り器など家庭的な雰囲気となっている。廊下など広く、歩行訓練や車椅子自走など動きやすくなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者同士の関係性を重視し生活環境を整えている。食事用のテーブルとソファを設置し、利用者同士で状況に応じて移動され過ごされている。1人で過ごせる共用空間は少ないため、自身の居室で過ごされることもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族に協力していただき、なるべくご自宅で使用していた馴染みのある家具や寝具、本、ラジカセ、写真などを居室に配置して、落ち着ける場として環境を整えている。	利用開始時に家族から、今・昔の趣味や好きな事を聞き、落ち着ける居室作りに取り入れている。パソコン・ギター・水槽の金魚など置き、心地よく過ごせるよう支援している。また転倒予防に配慮した家具配置にも努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共用部分では、迷われないようトイレ場所表示や、居室扉に表札表記するなど行っている。また動線上に不要な物品は置かないなど転倒に配慮している。各居室は、個人の動作能力に応じた家具配置や手すり設置など安全な環境設定に心掛けている。		

V アウトカム項目( 2階ユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の朝礼にて理念の唱和を行っている。また全体ミーティングやフロアミーティングにて事業計画の説明や振り返りを行う際に、理念を交えて話している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	以前は町内会行事への参加・協力や、近隣中学の職場体験実習の受け入れ、ボランティアの方をお呼びしたイベント等を毎年実施していたが、コロナ禍の生活となってからは、町内会行事、体験実習も中止となり、交流が行えていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者が地域包括支援センターと協力して介護予防拠点整備促進事業にて住民に向け認知症について話をする機会を持っていたが、コロナ禍にて参加できていない。新たに認知症アドバイザーを取得したため、今後サポーター養成講座に参加していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営状況の報告、行事等の取り組み紹介を中心に、出席者から諸々の意見聴取を行っている。 今年度から町内会長、民生委員だけでなく、認知症地域支援推進員の方にも参加していただき、地域の状況や認知症カフェの動向などを共有できるようになった。		
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町とは法人として関係性構築が強く、管理者は地域包括支援センター職員とは顔の見える関係が築けている。その中で入居問合せだけでなく、相談なども行われることがある。 新たに認知症地域支援推進員とも連携を図れるようになり、情報共有や相談が容易に行えるようになった。		

自己評価	外部評価	項目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等適正化委員会を中心に、生活を拘束しない適切な介助・援助が行えるよう、センサー等機器や環境整備に取り組んでいる。しかし転倒事故による骨折事例などあり、予防との兼ね合いに苦慮している中で、転倒・転落アセスメントシートを活用し、職員の意識向上に努めている。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年間研修として虐待防止研修を実施し、理解向上に努めている。またリーダーを中心に職員の要望や意見、気付き等を聴取しながら、職員のストレスマネジメントに配慮している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に成年後見制度を活用している入居者がおり、日々業務の中で意義や価値を実感している。新たに後見人制度を活用する事例があり、関係機関との連携は良い経験となりました。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居見学時より契約事項や方針を細やかにお伝えし、その中で口頭や書面でいただく本人・家族の希望を踏まえご理解をいただけるよう努めている。入居後も日々の生活変化をお伝えすることで、不安や疑問点を解消できるよう努めている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍にて容易に面会ができない中で、電話やメール、オンライン面会や物品の受け渡し時、毎月の通信などにて近況報告を行い、ご意見やご要望を聴取、日常生活に反映できるように努めている。また管理者は2・3回/月週末勤務し、平日仕事のご家族との連携に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目( 3階ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の全体・フロアミーティングの実施や、リーダーや管理者との個人面談を通して、職員からの意見等を聴取し、業務改善に繋げている。また議題については事前に通知し、参加できない職員の意見を聴取するように心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	半期毎に職員個人の目標設定と自己評価を実施。それを元に管理者が個人面談を行い人事評価を実施している。また日替わりで日勤リーダーを決め、仕事の向上心と責任感育成を図っている。職員のリフレッシュのため、年1回の最大5連休の長期休暇制度を継続している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	リーダーやリーダー候補には認知症実践研修、経験の浅い職員には認知症基礎研修などの受講を段階的に進めている。また管理者、リーダーは法人内管理者研修を受講している。新人教育では、教育担当者を中心に業務進捗状況シートを活用し、スタッフ全員で把握できるよう進めている。アセッサーが在籍し、キャリア段位制度活用が課題である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	認知症介護リーダー研修や認知症アドバイザー研修等通じて、認知症介護コーディネーターや認知症地域支援推進員との交流から相談できる環境は僅かながらできてきている。しかし近隣の同業者との連携や災害やコロナ感染症など緊急時の連携など課題に感じている。		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	施設内見学や事前面談、担当者会議などの機会を大切に、可能な限り本人の心身の状況把握、要望や不安を汲みとり、受け入れ態勢を整えている。入居初期より管理者だけでなく担当職員を決め、本人の気持ちに寄り添い、関係性構築に努めている。		
----	--	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目( 3階ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている。	管理者だけでなく担当職員を決め、ご本人の様子や状況をお伝えし、家族の想いや不安に寄り添いながら関係構築を図っている。特に入居初日や翌日には必ず生活のご様子をお伝えし、生活に慣れるまでは頻回に生活面の相談含めてコミュニケーションが図れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学・入居相談時には、当事業所で必要とされている支援が可能かどうか、ご家族と協議するように心がけています。当事業所に空きがなく、在宅生活継続するためのサービス検討のためにご家族、担当ケアマネジャーと連携を図った事例があった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食器洗い・拭きや洗濯物たたみ、テーブル・手すりの拭き掃除などの家事共に行ったり、季節行事合わせて作品と一緒に作製するなど生活を共に過ごしている。入居者の重度化もあり、介護優先となることもあるが、常に相手を敬う気持ちを忘れず、できる活動を継続して行っていけるよう接することを重要視している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍までは、面会や外出に制限は設けず、気楽に本人と家族が触れ合え、関係性を保ち続けられるように配慮していたが、現在はオンライン面会が主である。ただオンライン面会は特に遠方家族からは高評価をいただいている。その他毎月郵送する通信での近況報告や、何かあれば電話での報告・相談をするようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍で家族面会同様、思うようにできていないのが現状である。知人や親戚からの電話でのやり取り、手紙や贈り物の受け渡しの支援など、関係性になるべく維持できるように努めている。散歩中の顔なじみの方との挨拶程度の交流は継続できている。		

自己評価	外部評価	項 目( 3階ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	相性を考慮した席配置や、集団活動では関係性を構築できるよう職員が間に入るなど生活様式の組み立てを行い、社会性を保った入居生活が継続できるように配慮している。 誕生日会やイベントでは、他ユニットとの交流もできるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設転居の際には、次施設職員へ本人・家族状況やケアの工夫などを伝達し、スムーズに新しい環境に慣れていただけるよう努めている。退去後もご家族から近況報告や生活相談をいただくこともあり、適宜対応させていただいている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人らしい生活スタイルや希望を聴取し、実現できるよう心がけている。本人から聴取が困難な場合には、ご家族から聴取した生活歴・趣味や、以前の利用サービス関係者から情報を聴取し、カンファレンスにて話し合い生活援助計画に反映できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にこれまでの生活歴・人生歴等についてシートに記載していただき、それを元に本人・家族との対話の中で情報収集を行う。また以前の利用サービス関係者や、在宅連携ノート等から情報を得てカンファレンスにて共有し生活援助計画作成に反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の記録や、アセスメントツールを使用して状況把握を行い、申し送りや連絡表、カンファレンス等にてスタッフ間で共有している。転倒アセスメントシートを活用し、転倒リスクを把握し環境調整に反映したり、健康面は看護師との協働にてより正確に把握できるようになった。介護記録の記載内容についてはスタッフ間に差があり課題である。		

自己評価	外部評価	項目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	多職種(介護職員・看護師・療法士・ケアマネ)でのカンファレンスを実施。各々の立場から本人のニーズ実現のために話し合い、生活援助計画を作成している。ご家族にも事前に希望を聴取するように心がけている。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアの実践内容を介護記録に記録し、それを元にカンファレンスにて職員間で話し合いをもち見直しをかけている。より詳細に見やすい介護記録方法へ見直したが、内容や方スタッフ間に差があり、支援計画と連動が不十分なケースもあり、今後も改善を図っていききたい。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナ禍までは同敷地内にあるデイサービスのレクリエーションに職員と一緒に参加し、趣味であるカラオケを楽しんだりしていた。現在は法人内のリハビリから運動機器を借りたり、運動方法を学び実践していることあり。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍で地域資源をうまく活用できていない。感染状況が落ち着いている時には、近隣の店舗の理解を得て、美容室に通われる利用者や、近隣の教会の敷地をお借りして焼き芋を作ったりすることができた。		
30	11	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	現在の入居者は母体病院医師がかかりつけ医であるが、元々のかかりつけ医に受診することも可能。必要に応じ皮膚科や歯科の往診、整形外科、認知症専門医療機関への受診支援も行う。専門的医療が必要な場合は、母体病院を中心としたネットワークを活用、医療連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目( 3階ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	所属の看護職員が、入居者の健康管理を協働しており、内服管理や、日常の身体変化・異変時対応・助言を受けられる体制である。 医療機関受診時の付き添いなど、介護職員では及びにくい対応が可能となっている。また以前より皮膚トラブルが軽減しており、介護士の日頃のケア向上が図れている印象あり。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人の病院で入院加療を行うことが多く、入院中の様子も把握しやすく、医療スタッフとの連携は充実している。他医療機関との連携が必要な際には、同病院の社会福祉士の協力が得られ心強い。医療法人系列のグループホームとして、大きな強みに感じる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居者の状態変化に合わせて、かかりつけ医からの説明に管理者または看護師が同席し、当施設で対応できる支援内容の確認や、家族の理解と選択を深められるように努めている。 また定期的に看取りアンケートをご家族に実施し、意向確認をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内にAEDの設置しており、またその取り扱い講習を始め、緊急時の対応についての研修は同法人病院の主催によるものが多く、より専門性の高い研修を得られている。 夜間緊急対应当番、看護師夜間対応など夜間帯にも対応できる体制を整えている。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	夜間を想定した避難訓練を行ない、防災センターの防災宿泊研修に夜勤者全員の履修を目指している。また洪水・津波時の訓練も行っている。しかし地域住民との相互協力体制については検討の余地があり、BCP策定を進めていきたい。災害時備蓄については、3日分の準備を整えている。		

自己評価	外部評価	項目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	共に暮らすことによる親密さは大切にし、ステレオタイプなケアサービスにならないように努めている。同時に入居者様への敬いの気持ちを忘れることのないよう、言葉遣いからスタッフ間で配慮している。また半年に1回接遇チェックを行っており、自身の接遇について見直す機会としている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	例えば、更衣時の衣類の選択や食事の付け合わせの選択、買い物で購入希望を伺うなどすなど、日常生活で自己選択できるように問いかけて接することに留意している。意思表示が困難な方には、イエス・ノーや領きなど答えられる形であったり、表情にて判断している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床時間や食事時間、入浴頻度・時間など個人のペースや生活リズムを可能な限り尊重するように配慮している。しかし睡眠状況などの健康面や衛生面を考慮したり、集団生活としての一定のルールに則することも必要と考えており、難しい事例もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自身の希望に沿った美容用品を使用されていたり、コロナの感染状況が落ち着いている時は馴染みの美容室に通えるよう支援している。起床時にはまず身だしなみを整えることから支援させていただき、衣類も本人の好みで選んでいただき、ゆっくりと時間をかけられるよう配慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	重介護化が進む中で炊事を共有することが難しくなり、給食業者の手作り料理を提供しているが、希望される献立を業者に依頼したり、食器洗い等は入居者様と協働して取り組んでいる。また希望された食べ物は買い物やご家族様に持参いただき、食事の際などに提供している。希望に沿っておやつ作りなどは入居者様と一緒にいたりしている。		

自己評価	外部評価	項目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	健康管理表にて食事量・飲水量を把握・管理している。個々人の能力に合わせて自立して摂取して頂けるよう、食事形態や食器の工夫を行っている。水分摂取量についても、とりみや容器の形状、声かけのタイミングを検討しながら確保できるように努めている。また2週間に1回は必ず体重測定を行い、体重増減をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアチェック表を掲示し、毎食後の口腔ケアの励行と適切な援助を行っている。各個人の口腔ケアに見合った形状の歯ブラシやスポンジブラシなど準備をし、義歯の適切な管理を行っている。また必要に応じて歯科往診での口腔ケアを受けていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	重度化に伴い、夜間を中心にオムツを使用する入居者もおられるが、排泄チェック表にて個人の排泄タイミングを把握し、日中は出来る限りトイレで排泄が行えるように努めている。介助量が多大でも、日中のトイレ誘導を行う反面、双方の負担を軽減する方法に悩む事例もあり、リフトなど支援機器の導入も検討したい。		
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日頃から便秘予防にヨーグルトなどの乳製品や繊維質な食品を摂取するように心がけたり、水分摂取を促すようにしている。またラジオ体操や散歩等の運動を促している。排便コントロールが必要な場合には、医師・看護師と連携して適切な薬剤使用、処置を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	時間帯や人数によって叶えられない部分もあるが、個人の希望に沿えるように時間調整などを行っている。浴槽リフトやシャワーキャリーを活用しているが、より重度化が進みシャワー浴での対応となっている方には足浴を同時に行うなど工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目( 3階ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	個人の生活サイクルに応じて、極 力自由な生活援助を行っている。 また夜間の睡眠状態や下肢浮腫 が強い方など状況に応じて日中 の休息時間を設けたり、夜間安 眠できるように快適な室温・湿 度に調整する、リラックスでき る音楽をかけるなど支援してい る。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	薬剤情報をファイルにて一括管 理、各フロアに配置しすぐに確 認できる体制にしている。また 内服忘れや誤薬を防止するため に、職員2人で配薬時・服用前 後にチェックを行っている。ま た体調変化による服用のコント ロールなどは訪問する薬剤師や 看護師と相談し、必要に応じて 医師と相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	能力に応じて、洗濯や皿洗い、 拭き掃除など家事の役割をもっ てもらえるよう努めている。ま た計算や塗り絵、歌、作品づく り、好きなテレビ鑑賞など趣味 に応じたアクティビティを取り 入れ、気分転換に努めている。 毎日全員を支援することは難し いが、援助計画に沿った支援を 行うように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける られるように支援している。	日々の散歩やなどの外出はマス クを着用するなど感染対策をし て日常的に取り組んでいる。コ ロナ禍で家族との外出や人流 のある場所には行けないが、 花見や紅葉狩り、ドリミネー ション鑑賞、課外活動(焼き芋) など、希望や季節を感じてもら える外出行事を企画している。		
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	ご家族様に理解を頂きながら、 入居者本人管理で現金を持たれ ている方もおられる。コロナ禍 でなかなか一緒に買い物には 行けず、職員がそれぞれの希 望を聞き、代理で買い物に行 き立替ったり、事業所内で支払 って頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目( 3階ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	知人や家族に電話をかけられる時に支援をしたり、かかってきた電話の取次ぎ支援をしている。入居者希望で年賀状や郵便のやり取りの支援も行っている。 コロナ禍となってからはオンライン面会も活用している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個々人の認知症状や好みによって合う環境は異なるが、毎日の掃除を心掛け清潔感と適切な室温・湿度を保つようにしている。また季節を感じれるように花を飾ったり、行事毎に一緒に飾り作製をしたり、寛げるようソファを置くなど生活感を感じれるようにしている。夜間は照明を調整し転倒予防に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者同士の関係性を重視し生活環境を整えている。食事用のテーブルとソファを設置し、利用者同士で状況に応じて移動され過ごされている。1人で過ごせる共用空間は少ないため、自身の居室で過ごされることもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族に協力していただき、なるべくご自宅で使用していた馴染みのある家具や寝具、本、ラジカセ、写真などを居室に配置して、落ち着ける場として環境を整えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共用部分では、迷われないようトイレ場所表示や、居室扉に表札表記するなど行っている。また動線上に不要な物品は置かないなど転倒に配慮している。各居室は、個人の動作能力に応じた家具配置や手すり設置など安全な環境設定に心掛けている。		

V アウトカム項目( 3階ユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 あんしんホーム

作成日 令和4年4月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時における地域住民との相互協力体制の強化が必要。	地域住民との協力体制の整備を行う。	運営推進会議にて町内会長や民生委員等と体制整備について話し合っていく。	1年間
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。